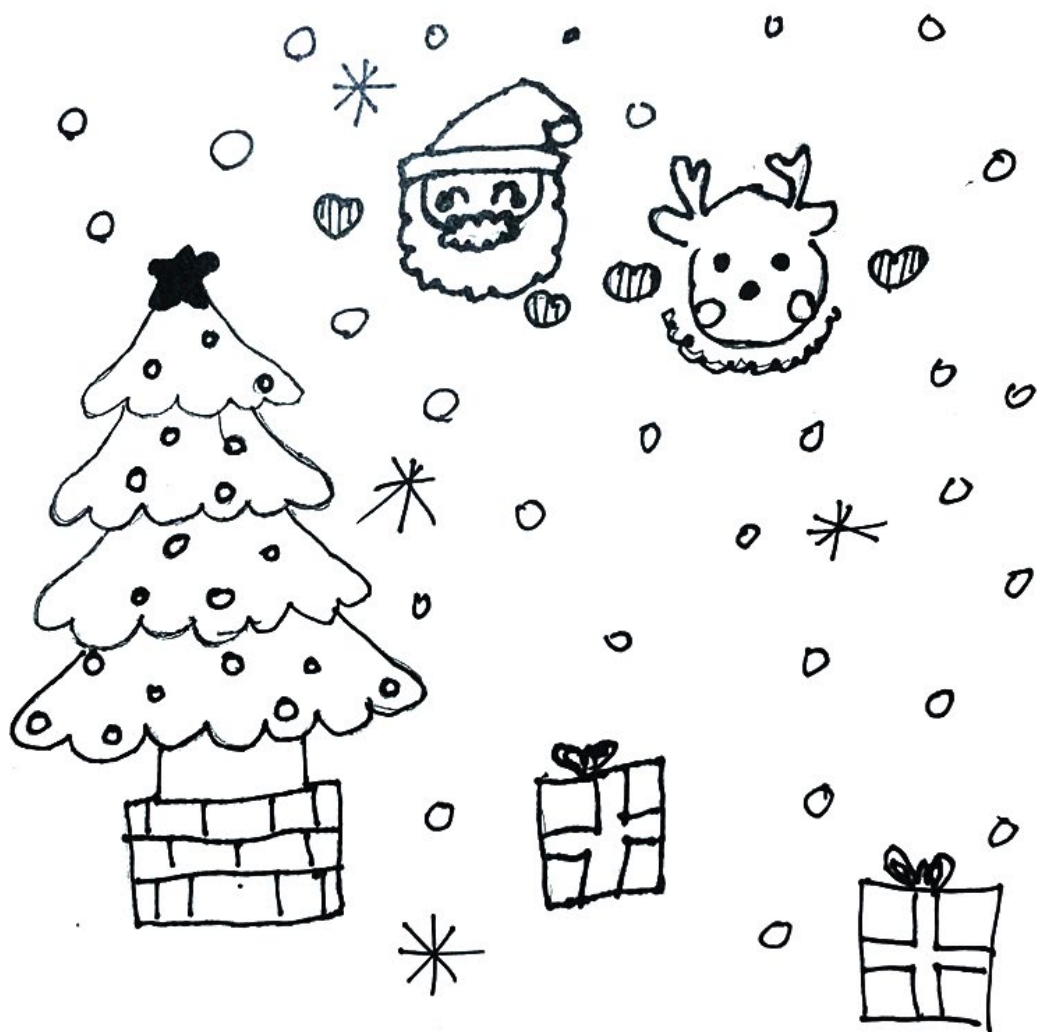


とよ・たち 美肌通信

12月号

vol.161

ここな





今月号のとびにち美肌通信の表紙には
大きなクリスマスツリーとサンタクロース、トナカイ
がプレゼントを配っている絵です。

世界中の子供たちにプレゼントが届きますように...
一輪車にも乗れてプレートボードもできる、
スイングも得意な女の子が描いて下さいました。
ありがとうございます。

今年も1年ありがとうございます。

来年もどうぞ宜しくお願いいたします。

院長 へいめ スタッフ一同

により感謝いたします。

私も含め人は(明くの人達は) 幸せを求め続けて生きています。周囲を見わたしても「私は不幸になりたい」と願って生きている人はいません。斯く言う私も同じく「幸せになりたい」と願って生きています。古今東西私達人間は、首までドブのフリと生温かいぬるま湯につか、て生きていたいと思う非常に愚かな生き物と言えます。

後に示す図は、「太極図」や「陰陽思想」と言われるもので、御存知の方もおられるかと思いますが、黒の部分に陰、白抜きの部分を陽といいます。一般的に陰と言えは「悪いイメージを連想し、陽と言えは「良いイメージを想い浮かぶか」を知らませんが、これは陰イコール悪、陽イコール善や良ではなく、陰と陽は常に対極に存在するものという意味で用いられます。次に陰の中にある白い小さな丸を「陰中の陽」といい、同じく陽の中にある黒い丸を「陽中の陰」と呼びます。これらは総じて何を意味するかという、「陰を極めれば「陽に極まり、陽を極めれば「陰に極まる」、陰陽対極にある2つの事柄、本質は常に一つであるという事を表現した図なので。

では、もう少し具体化すると 陰を不幸な出来事、陽を幸せな出来事だと仮定した場合、不幸を突き詰めれば「幸せに極まり、幸せを突き詰めれば「不幸に極まる」ということを指し示しているとも言えます。これを更に理解し易くした賢人の話があります。荘子の言葉とされる「螽^{けいこ}蛄^こ春秋を識^しらず」という一節です。「螽蛄」とは

「蝉」のこと。蝉は夏の暑い一時期しか地上にいないから、夏の前の春も夏の後の秋も更には対極にある冬さえ知らないのだから可愛あはいそうだうといった言葉である。さて時を異にして雲鷲大師は、この荘子の言葉を引用しこう問いかけた。“確かに言う通り蝉は春秋を知らないだろう。しかし蝉は夏なら知っていると言い切れるのだろうか？と。答えはNoであるという。

なぜなら夏の間だけしか地上に出ていない蝉が、今が夏だうとどう証明出来ようか。私達が夏が来たうと分かるのは、夏以外の季節を十分に知りつくしているからこそである。春を知り秋を体験し冬の厳しさを経験したからこそ夏が来た時うにようやくその季節を心から実感できるのである。つまり夏しか生きていない蝉には真の夏を理解することは出来ない。

転じて幸せしか生きていない人に真の幸せなど永久に分かることは無い。奥は幸せと不幸は表裏一体で本質は同じであるということ。私達は人生を生きる中で、何度チャレンジしても思いが実現せず、挫折を何度も繰り返し涙を流しながら、それでも歩みを止めずうに、やがてついに勝ち取る幸せだうからこそ、あー幸せだうなあうと実感することが出来る。すなわち幸や苦を知らない人に本当の幸せを感じることは不可能。

大切な人に振りかかった負の出来事が、実は幸福への入り口なのだとも今までの話からそう理解することも出来様。そして自分や近い人達が不幸の真んただちにいる時、これが今あるからやがて自分は幸せを感じられる時が来る、と考えるとはいかかたろうか。

例えは「受験に失敗した事、病気になった事を嘆いたり、人のせいにする事は容易い。失敗からしか学べないこともあり、病気だからこそそれでも生きていられる事への喜びを理解出来るのも事実である。

困難や不幸を経験した事のない人に本当の幸福は分からないのである。太極図は人生の心の持ち様を明快に表している。

院長、拝

